

■ 仙台城の築城

仙台城は、初代仙台藩主伊達政宗によって造営され、慶長7年(1602)には一応の完成をみたとされています。城は、東と南が広瀬川と竜の口溪谷の断崖、西が険しい山に囲まれた天然の要害で、石垣は主に本丸の周りに築かれました。築城当初は、本丸と現在三の丸と呼ばれている地区が整備されました。その後、二代藩主忠宗が二の丸を造営すると、二の丸が藩政の中心となりました。

■ 仙台城の石垣

本丸北壁石垣は、平成9年～平成16年にかけて修復工事が行われ、工事に伴う発掘調査で、現在の石垣の裏側から、2つの時期の古い石垣が発見されました。最も古いⅠ期石垣は、政宗が築城した17世紀初頭のもので、自然石を加工せず、長いほうを横方向にして積んでいます。次の段階のⅡ期石垣は、17世紀前半のもので、自然石に多少加工を加え、長いほうを前後にして積んでいます。現在のⅢ期石垣は、寛文8年(1668)の地震の復旧のために17世紀後半に築かれたもので、全面が加工された「切石」を、目地をそろえて積んでいます。



本丸跡北東部の石垣(北東から)

さまざまな石垣

城内にある石垣では、使われる石材の加工の仕方や、石の積み方の違いなどを観察することができます。



■ 仙台城の象徴！ 本丸大広間

本丸には「表」と「奥」とに分かれて数多くの御殿建物が建てられ、その中心が慶長15年(1610)に完成した「大広間」でした。大広間には全部で14の部屋があり、周囲に廻る縁側を合わせると約430畳もの広さがある桃山建築の粋を集めた豪華な建物でした。また大広間の北には「能舞台」、東の崖際には「懸造」がありました。

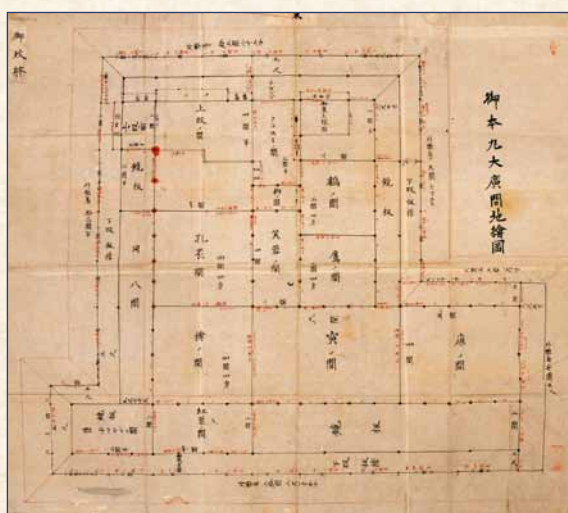


「千田家姿絵図(本丸大広間部分)」(仙台市博物館所蔵)

絵図や発掘調査をもとに製作した大広間の模型(1/50)をぜひご覧ください。

■ 政宗が座った「上段の間」

上段の間は、最も重要な儀式や、藩主が家臣との対面を行った格式の高い部屋です。幅が4間(約7.9m)もあり、奥の「床」には狩野左京による「桐と鳳凰」の障壁画が描かれていました。また北側には天皇家や将軍家を迎える際に使用する「上々段の間」がありました。



「御本丸大広間地絵図」



「鳳凰図屏風」(松島町所蔵)

「上段の間」のコーナーでは、床の間を実寸大で再現しています。その大きさと華麗な障壁画をご覧ください。



発掘調査で見つかった金銅金具

仙台城の歴史

西暦	年号	主な出来事
1600	慶長5年	政宗、千代を仙台と改め、城普請の縄張を行う
1601	慶長6年	政宗、仙台城普請を開始する(築城開始)
1603	慶長8年	政宗、仙台城に入城する
1610	慶長15年	仙台城大広間が完成する
1616	元和2年	地震により石垣・櫓が被害を受ける
1627	寛永4年	幕府より仙台屋敷(若林城)の造営を許される(翌年11月完成)
1638	寛永15年	二の丸の普請を開始(翌年6月完成)
1646	正保3年	地震により石垣が崩れ、櫓が倒壊する
1668	寛文8年	大地震、仙台城本丸石垣が崩れる
1683	天和3年	仙台城本丸石垣修復なる
1688	元禄元年	元禄年間の二の丸改造(1700年頃まで)
1804	文化元年	雷火のため二の丸全焼
1805	文化2年	周宗、二の丸再建に着手(文化6年4月完成)
1868	明治元年	仙台藩降伏
1871	明治4年	東北鎮台(後の仙台鎮台)を仙台城二の丸に移す(明治7年ごろ、仙台城本丸が破却される)
1931	昭和6年	大手門(入母屋本瓦葺櫓門)・脇櫓を国宝指定
1945	昭和20年	仙台空襲。大手門・脇櫓、巽門焼失
1963	昭和38年	大手門脇櫓建設着工(昭和42年完成)
1997	平成9年	石垣修復工事に伴う仙台城本丸跡発掘調査開始
2003	平成15年	仙台城跡国史跡指定
2004	平成16年	仙台城本丸北壁石垣修復工事完成
2011	平成23年	東日本大震災により、石垣や土塀が被災
2015	平成27年	東日本大震災石垣復旧工事完了

仙台城見聞館 利用案内

- 利用時間 午前9時～午後5時 年中無休
- 入館料 無料
- 所在地 〒980-0862 仙台市青葉区川内1-11
- 問合せ先 仙台市教育委員会文化財課
TEL:022-214-8544
FAX:022-214-8399



<http://www.city.sendai.jp/shisekichosa/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/bunkazai/joseki/index.html>

再生紙を使用しています。